

個人投資家様向け会社説明会

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長 グループCEO

2023年11月17日



目次

1. アンリツのご紹介
 2. 事業のご紹介
 3. 中期経営計画
 4. 環境問題への取り組み
 5. 株主様還元
- ＊ウェブサイトのご案内＊

1-1. 会社概要



アンリツ株式会社

〒243-8555

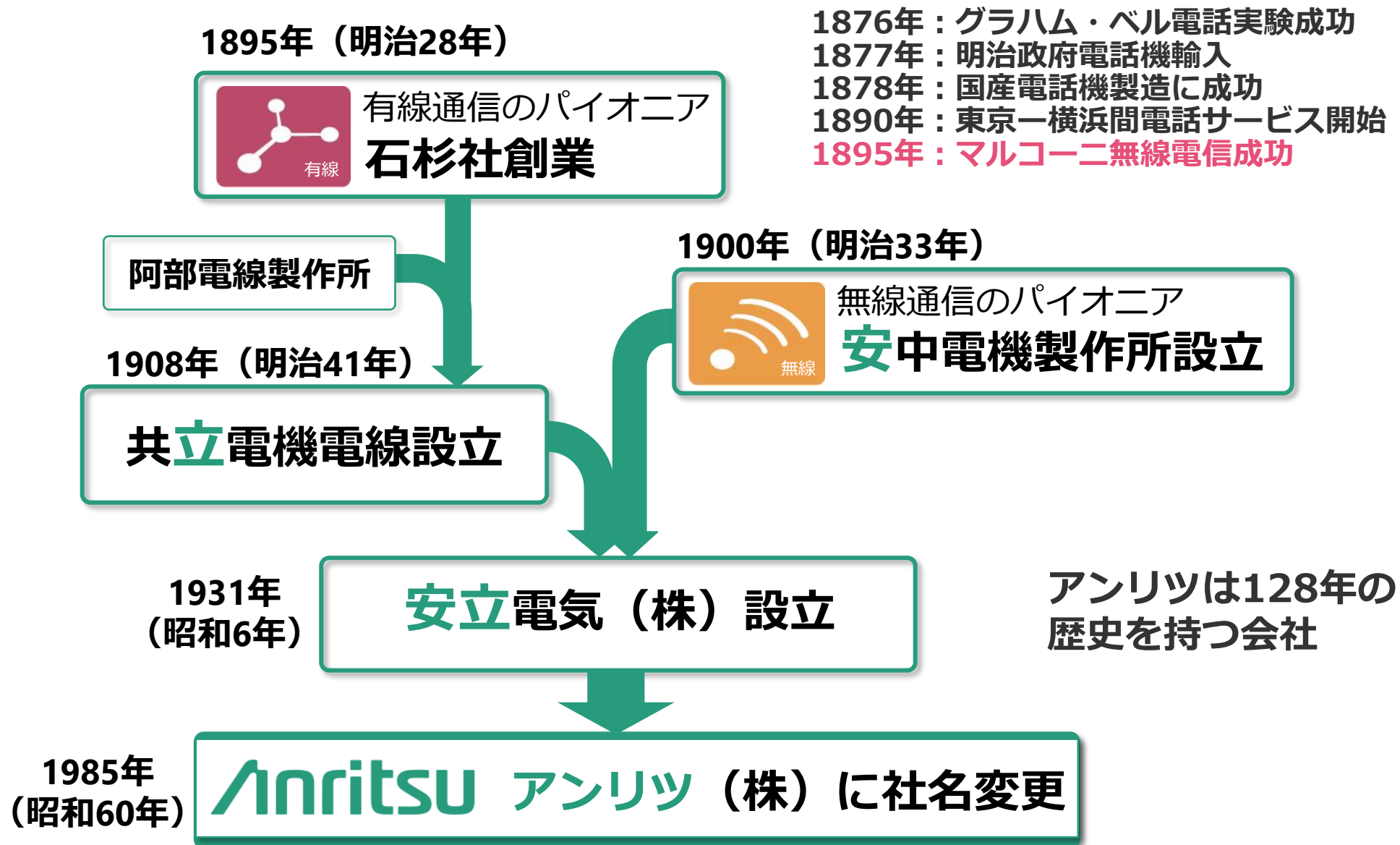
神奈川県厚木市恩名5-1-1

Tel : 046 -223 -1111 (代表番号)

<https://www.anritsu.com>

- 創業（石杉社）^{せきさんしゃ} : 1895年（明治28年）
- 資本金 : 192億18百万円（2023年3月31日現在）
- 売上高 : 1,109億19百万円（2023年3月期 連結）
- 従業員数 : 4,144名（連結）（2023年3月31日現在）
1,750名（単独）（2023年3月31日現在）

1-2. 社名の由来



1-3. アンリツはこんな会社です

1895年の創業という長い歴史をもつ会社

- ・常に情報通信の最先端技術を追い求めるパイオニアとして、挑戦の道を歩む

そして、今は

- ・コアコンピタンスである「はかる」技術をベースに、通信分野と食品分野を中心に支えている

社会課題貢献の歴史

通信の実用化

- 1908：後の公衆電話機となる自動電話機を量産
- 1914：世界に先駆けて無線電話機を実用化
- 1924：国産初のラジオ放送聴取用受信機製作
- 1933：国産初のテレビジョン放送機製作

通信インフラの整備、食品の大量生産

- 1950：TV放送向け各種測定器の開発・製造
- 1956：公衆電話機の開発・製造
- 1964：食品用重量選別機の開発・製造

光・デジタル通信の高速化、食品の安全・安心

- 1981：業界初の光パルス試験器の開発・製造
食品用金属検出機の開発・製造
- 2000：高速データ通信用測定器の開発・製造
食品用X線異物検出機の開発・製造

モバイル通信の進化・発展

- 2001：業界初の3G用測定器の開発・製造
- 2010：業界初の4G用測定器の開発・製造
- 2018：業界初の5G用測定器の開発・製造



たとえば、スマホの開発で使われる**通信用計測器**をつくっています。

開発中のスマホは、実環境の基地局（携帯ネットワーク）に接続することはできません。

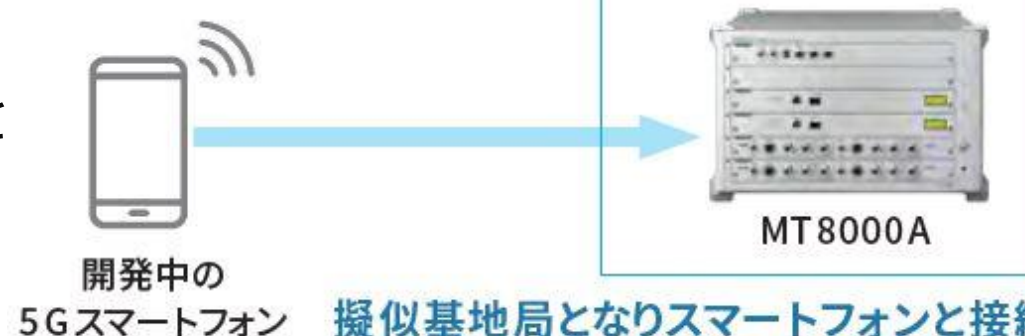
アンリツの通信用計測器は、擬似的な基地局（携帯ネットワーク）となり、お客様は開発中のスマホの各種試験を行います。

● 実環境



擬似化

● 試験環境



擬似基地局となりスマートフォンと接続して無線および
プロトコル動作を試験する

1-5. アンリツと皆さまとのつながり

～PQA事業～

たとえば、食品の生産ラインで使われる**異物検出機**をつくっています。

※PQA：Products Quality Assurance

異物混入を防ぎ、検査品の数量不足
や形状不良の検査も行います。



鶏肉の残骨検査



異物検査

食品などに含まれる石やプラスチック、残骨
などを検出します。



欠品検査

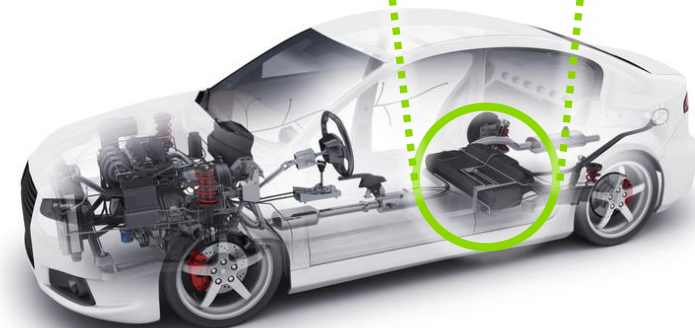
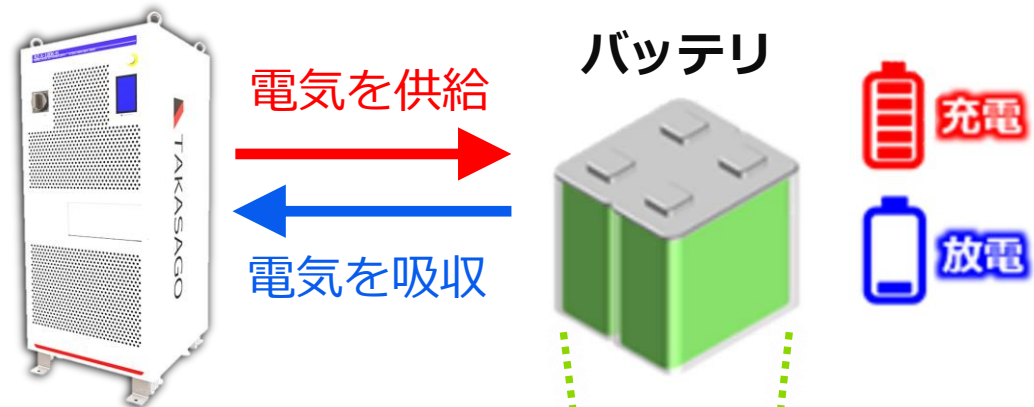
お弁当のおかずに欠品がないか検査し
ます。

欠品

たとえば、EV（電気自動車）の開発で使われる**電源**をつくっています。

- ・ 高電圧電源でバッテリーの充放電試験を行います。

バッテリー充放電試験



1-7. 事業内容

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場：5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

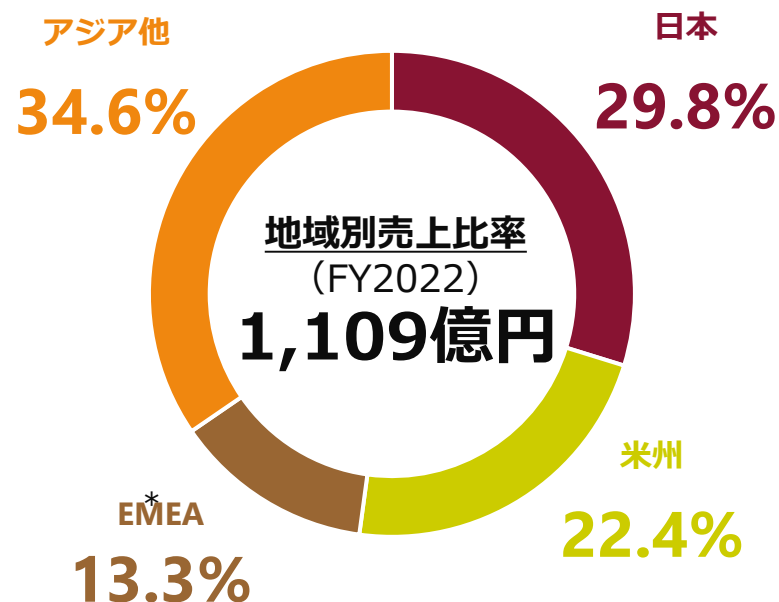
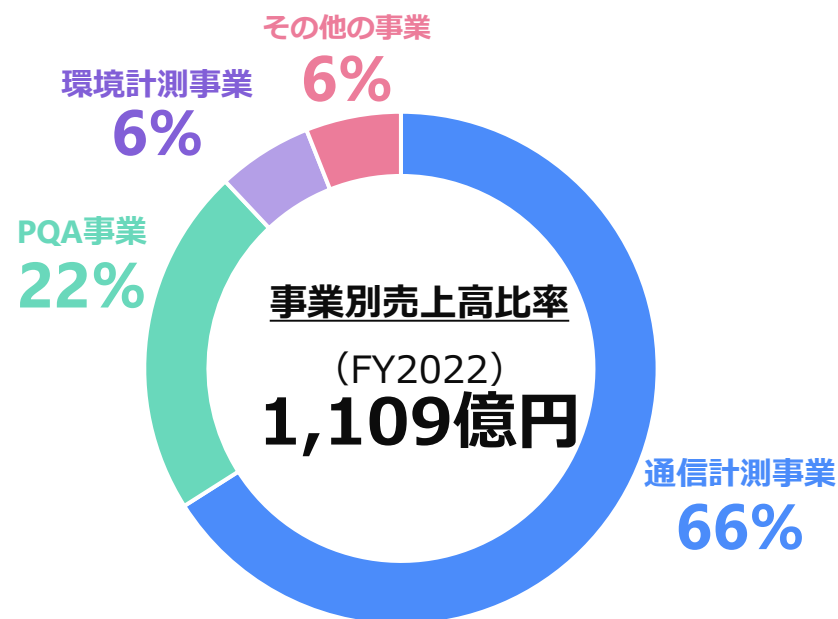
- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

PQA : Products Quality Assurance



環境計測事業

- ▶ EV・バッテリー向け試験
- ▶ ローカル5G、プライベート5G
- ▶ 道路、ダム・河川等のモニタリング



その他の事業 センシング&デバイス事業

- ▶ 産業用・医療用光センシング
- ▶ 通信用光デバイス
- ▶ 通信用電子デバイス



先端技術研究所

- ▶ 次世代技術の獲得
- ▶ 6Gに向けた研究開発

1-8. グローバル展開

EMEA*

売上高	売上比率
147 億円	13.3%
従業員数	
362 人	

日本

売上高	売上比率
330 億円	29.8%
従業員数	
2,485 人	

* EMEA : 欧州、中近東、アフリカ

グループ

売上高	
1,109 億円	
従業員数	
4,144 人	
会社数	
47 社	

アジア他

売上高	売上比率
383 億円	34.6%
従業員数	
698 人	



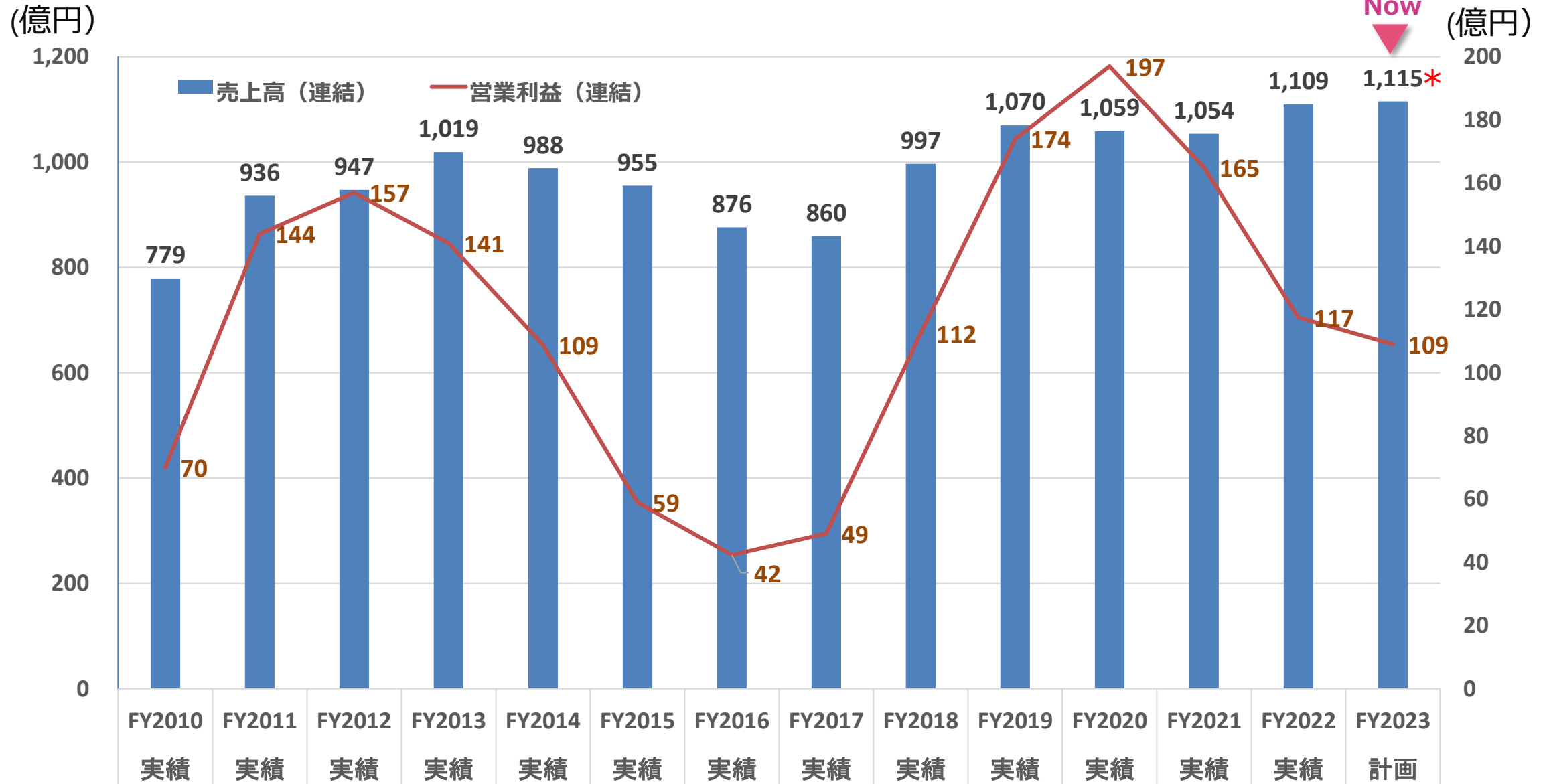
アンリツ株式会社（本社）

米州

売上高	売上比率
248 億円	22.3%
従業員数	
599 人	

（2022年度もしくは2023年3月末時点）

1-9. 業績について



* 2023年10月30日発表の数値に変更済

2. 主な事業のご紹介

- 通信計測事業
- PQA事業
- 環境計測事業

2-1. 事業内容の紹介

～通信計測事業～

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場：5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

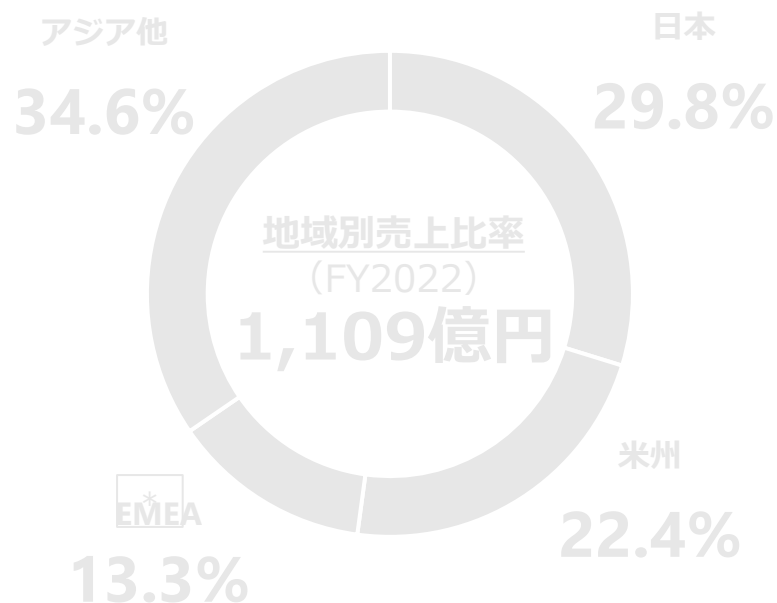
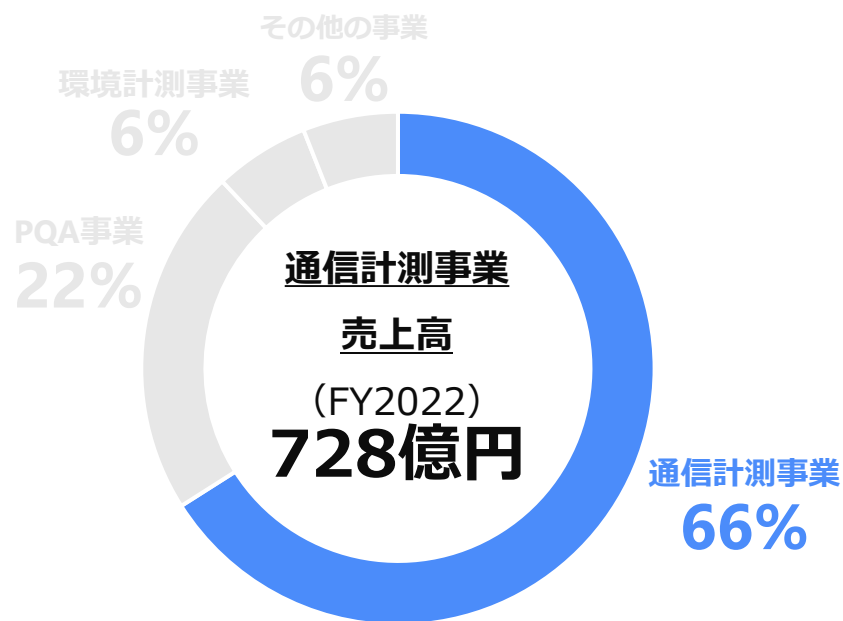
- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機



PQA : Products Quality Assurance

環境計測事業

- ▶ EV・バッテリー向け試験
- ▶ ローカル5G、プライベート5G
- ▶ 道路、ダム・河川等のモニタリング



その他の事業 センシング&デバイス事業

- ▶ 産業用・医療用光センシング
- ▶ 通信用光デバイス
- ▶ 通信用電子デバイス



先端技術研究所

- ▶ 次世代技術の獲得
- ▶ 6Gに向けた研究開発

2-2. 通信計測事業の製品・ソリューション

情報通信ネットワークを支える



光ファイバーの工事・点検に

基地局の建設・保守に



オートモーティブ試験に



コアネットワーク



ネットワークの
モニタリングに



メトロネットワーク



モバイルフロントホール/バックホール



スマホ、
通信デバイスの開発に



クラウド、生成AI用データセンターの
高速化・効率化に



電子部品などの開発/生産に



2-3. 通信計測業界の特徴とアンリツの強み

通信計測業界の特徴

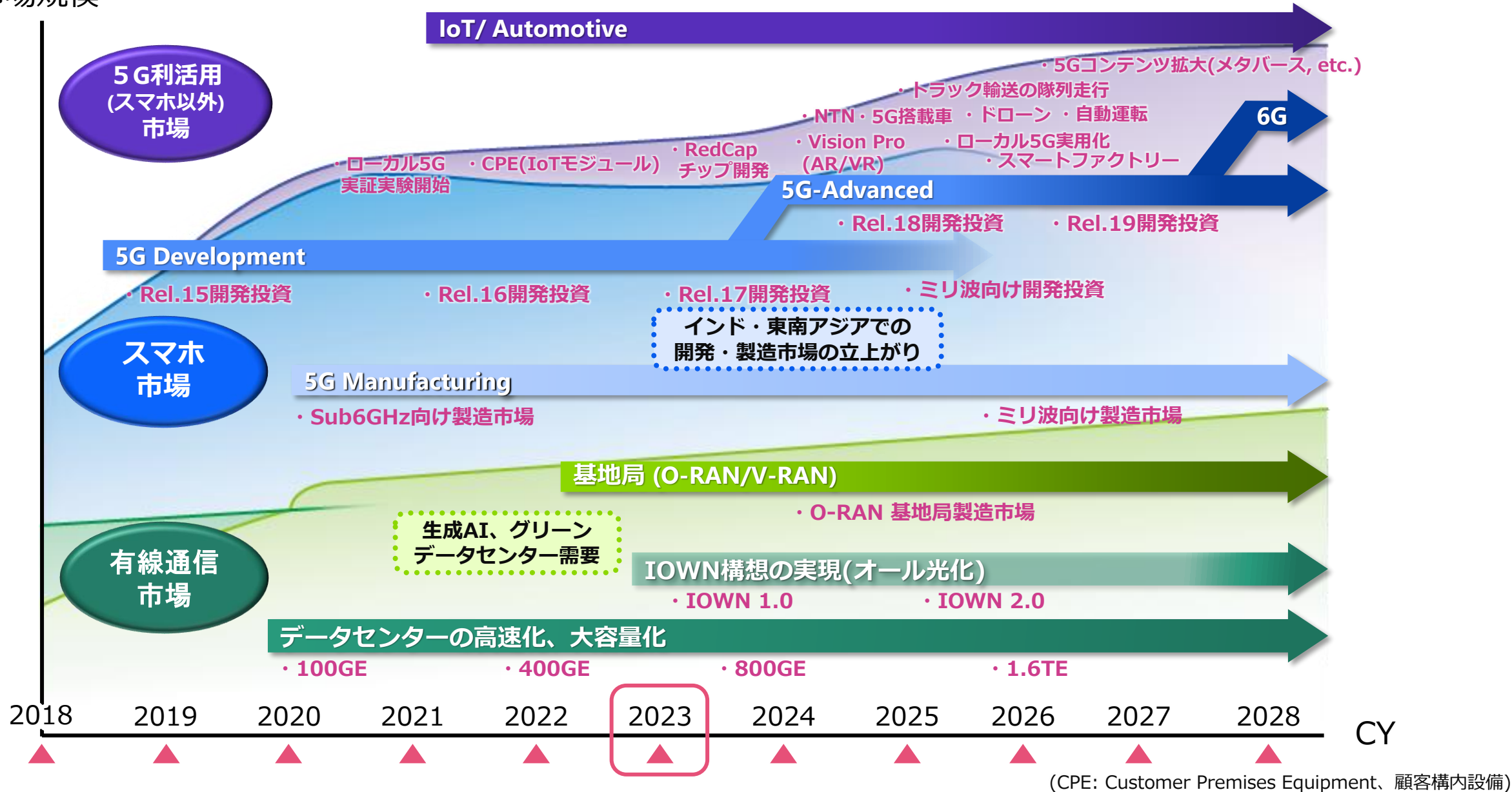
- 変化が激しい通信業界への素早い適応力が求められる
- 技術的な参入障壁が高く、限られた主要プレイヤーによる競争
- 主な競合企業は世界に2社
キーサイト・テクノロジー（米）
ローデ・アンド・シュワルツ（独）

アンリツの強み

- 高い技術力
 - 高度な技術の蓄積
 - 有線・無線双方の技術を保有
 - キーデバイスを自社開発
- グローバルなキープレイヤーとの信頼関係
- グローバルな開発・販売・サポート体制

2-4. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



2-5. 事業内容の紹介 ～PQA事業～

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場：5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

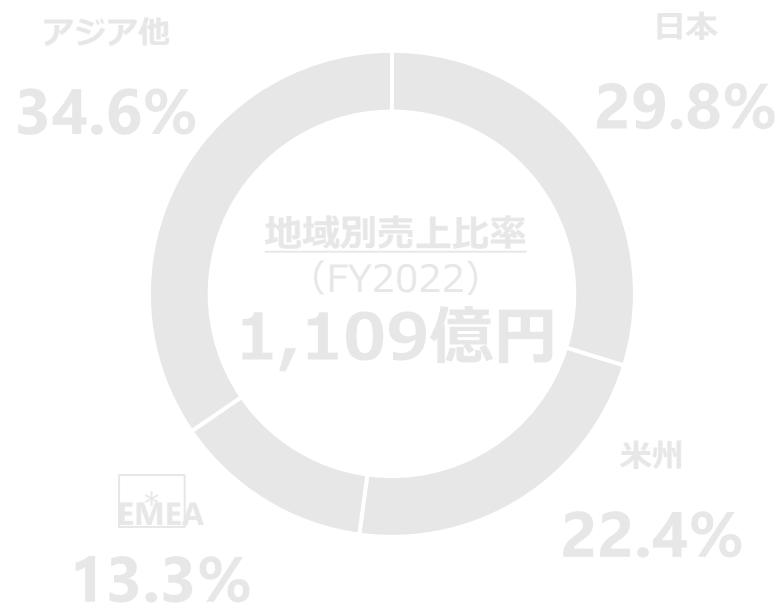
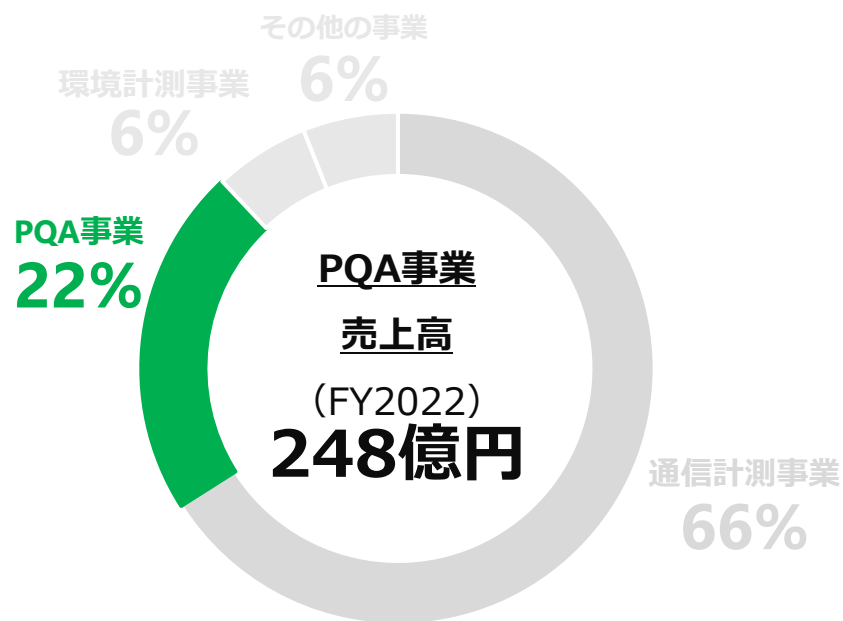
- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機



PQA : Products Quality Assurance

環境計測事業

- ▶ EV・バッテリー向け試験
- ▶ ローカル5G、プライベート5G
- ▶ 道路、ダム・河川等のモニタリング



その他の事業 センシング&デバイス事業

- ▶ 産業用・医療用光センシング
- ▶ 通信用光デバイス
- ▶ 通信用電子デバイス



先端技術研究所

- ▶ 次世代技術の獲得
- ▶ 6Gに向けた研究開発

2-6. PQA事業の製品・ソリューション

食品・医薬品の安全と安心を見守る

総合品質管理・
制御システム

QuICCA

被検査物の例



スナック菓子



ソーセージ



肉



カット野菜

金属検出機

重量選別機

自動電子計量機

X線検査機

計量・充填

質量検査

異物検査

包装検査

異物の例



ガラス、
プラスチック
ク片など



硬質ゴム
(パッキンなど)



石片



骨、貝殻

2-7. 食品検査業界の特徴とアンリツの強み

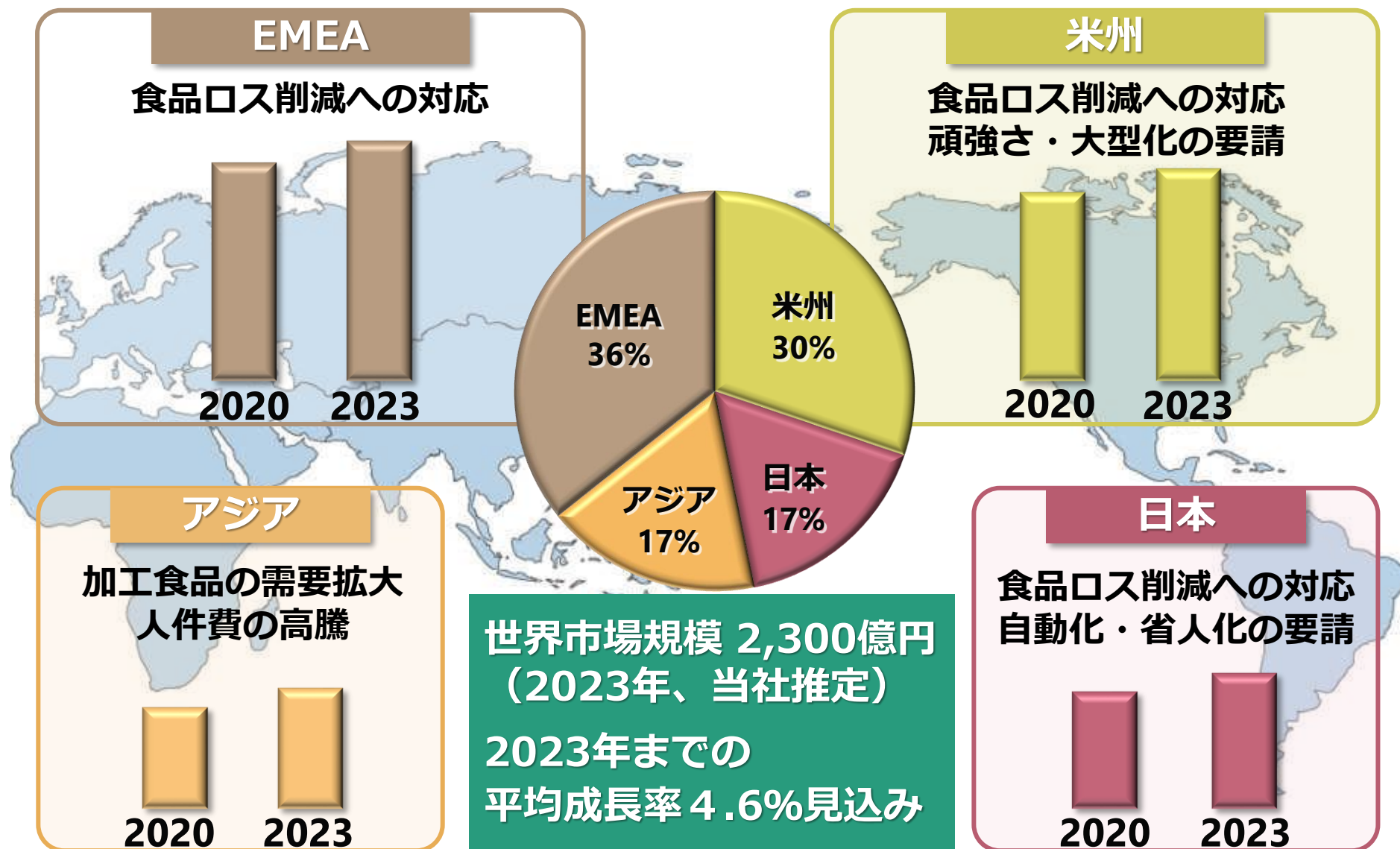
食品検査業界の特徴

- 世界的な食の安全安心への要求の高まり
- 食品生産ラインの自動化・省人化
- 競合企業は、イシダ社（日）とメトラ・トレード社（スィス）、その他地域ごとに多数

アンリツの強み

- 高速・高精度な品質検査技術
- 充実した保守体制
- 国内の食品検査市場でのトップクラスの市場地位

2-8. 食品検査市場の現状と見通し



2-9. 事業内容の紹介 ～環境計測事業～

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場：5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

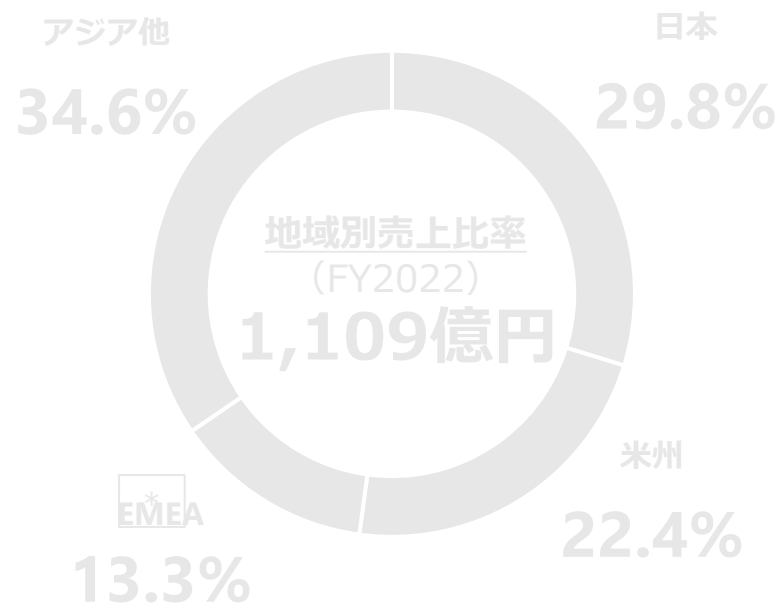
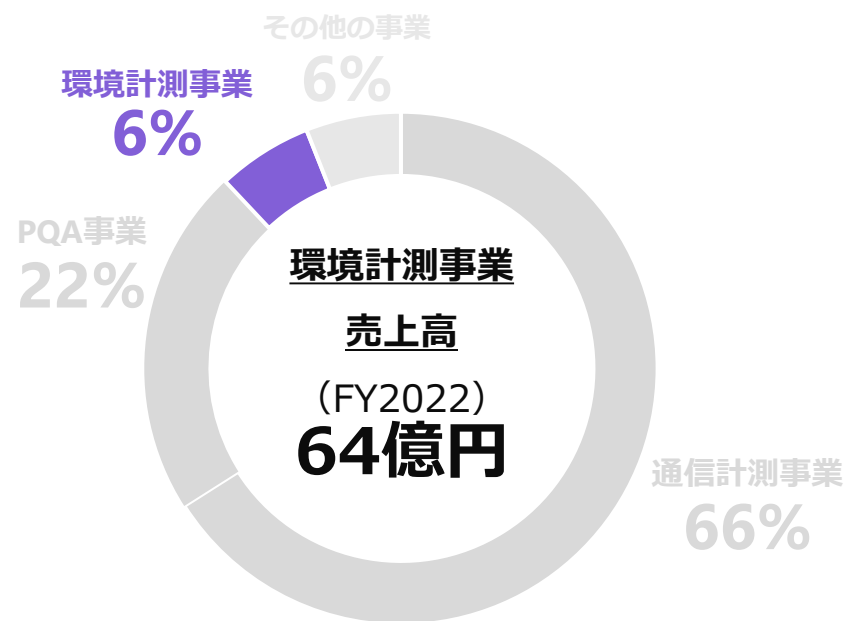
- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機



PQA : Products Quality Assurance

環境計測事業

- ▶ EV・バッテリー向け試験
- ▶ ローカル5G、プライベート5G
- ▶ 道路、ダム・河川等のモニタリング



その他の事業 センシング&デバイス事業

- ▶ 産業用・医療用光センシング
- ▶ 通信用光デバイス
- ▶ 通信用電子デバイス



先端技術研究所

- ▶ 次世代技術の獲得
- ▶ 6Gに向けた研究開発

2-10.環境計測事業のソリューション例



EV・バッテリー開発



スマートファクトリー

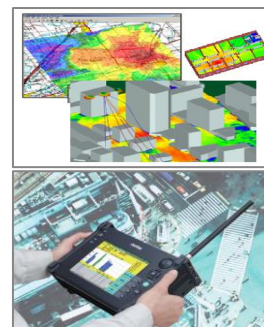


EVパワートレイン
エミュレーション



バッテリー充放電
試験システム

EVの主要部品であるバッテリー、インバータ、モーターの性能や信頼性評価に用いられる各種試験装置を提供



ローカル5G
導入・運用・活用
支援サービス



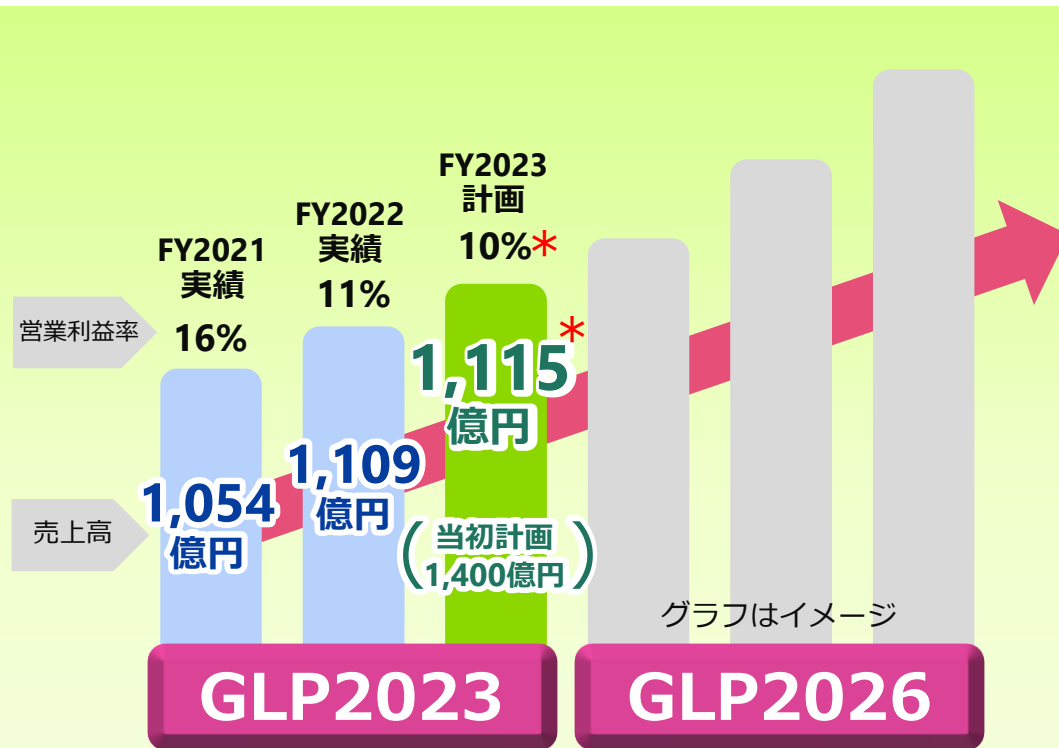
製造DX支援システム

工場の省人化や生産性向上に向けて
ローカル5Gやデジタル技術の導入と活用を支援

3. 中期経営計画

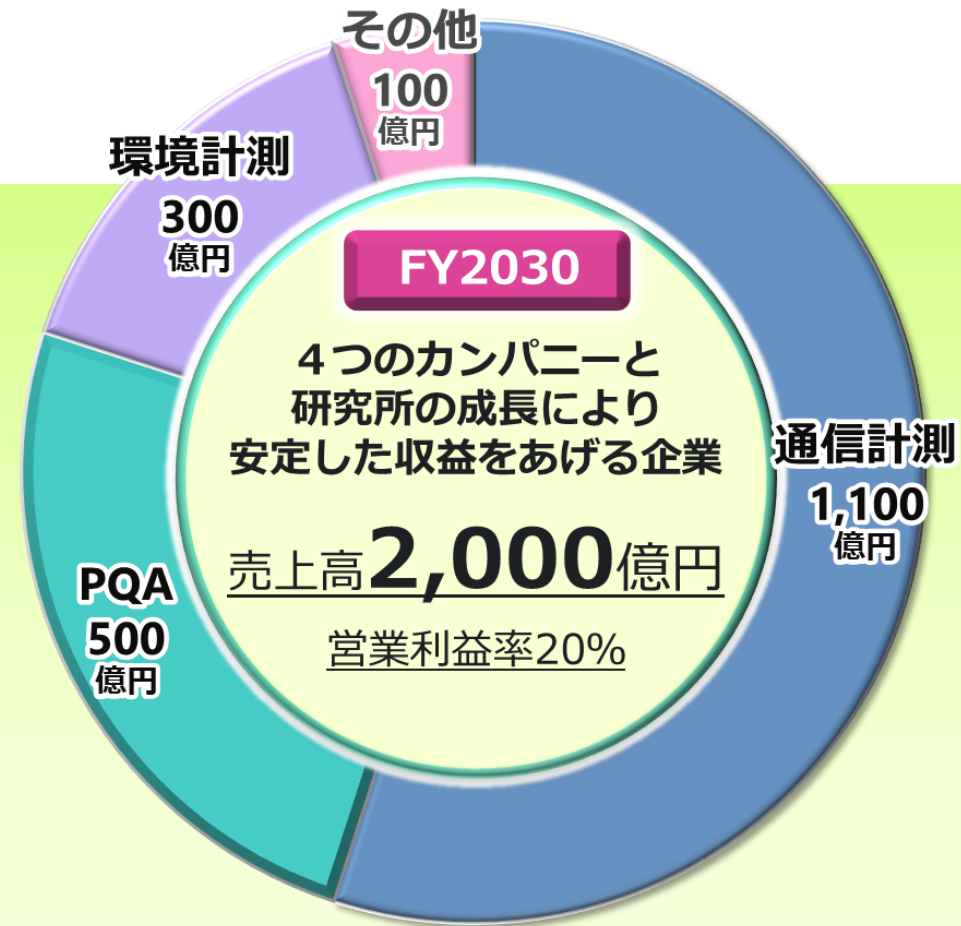
3-1.FY2030に向けて

「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



GLP2023の進捗と計画値の変更

* 2023年10月30日発表の数値に変更済



FY2030の目指す姿

(M&Aによる成長を含む)

通信計測成長ドライバ

- 6G、IOWN
- 5G利活用
自動運転、スマートシティ
スマートファクトリー、
メタバース、衛星通信
- O-RAN、V-RAN
- 次世代コンピューティング

PQA成長ドライバ

- 食品市場での
グローバル事業拡大
- 医薬品市場への浸透
- AIを活用した
品質検査ビジネス

環境計測成長ドライバ

- EV・電池、
社会インフラの脱炭素化
- 産業DX、ローカル5G、
スマートファクトリー
- 社会インフラのスマート化
- グローバル展開

3-2. GLP2023中期経営計画

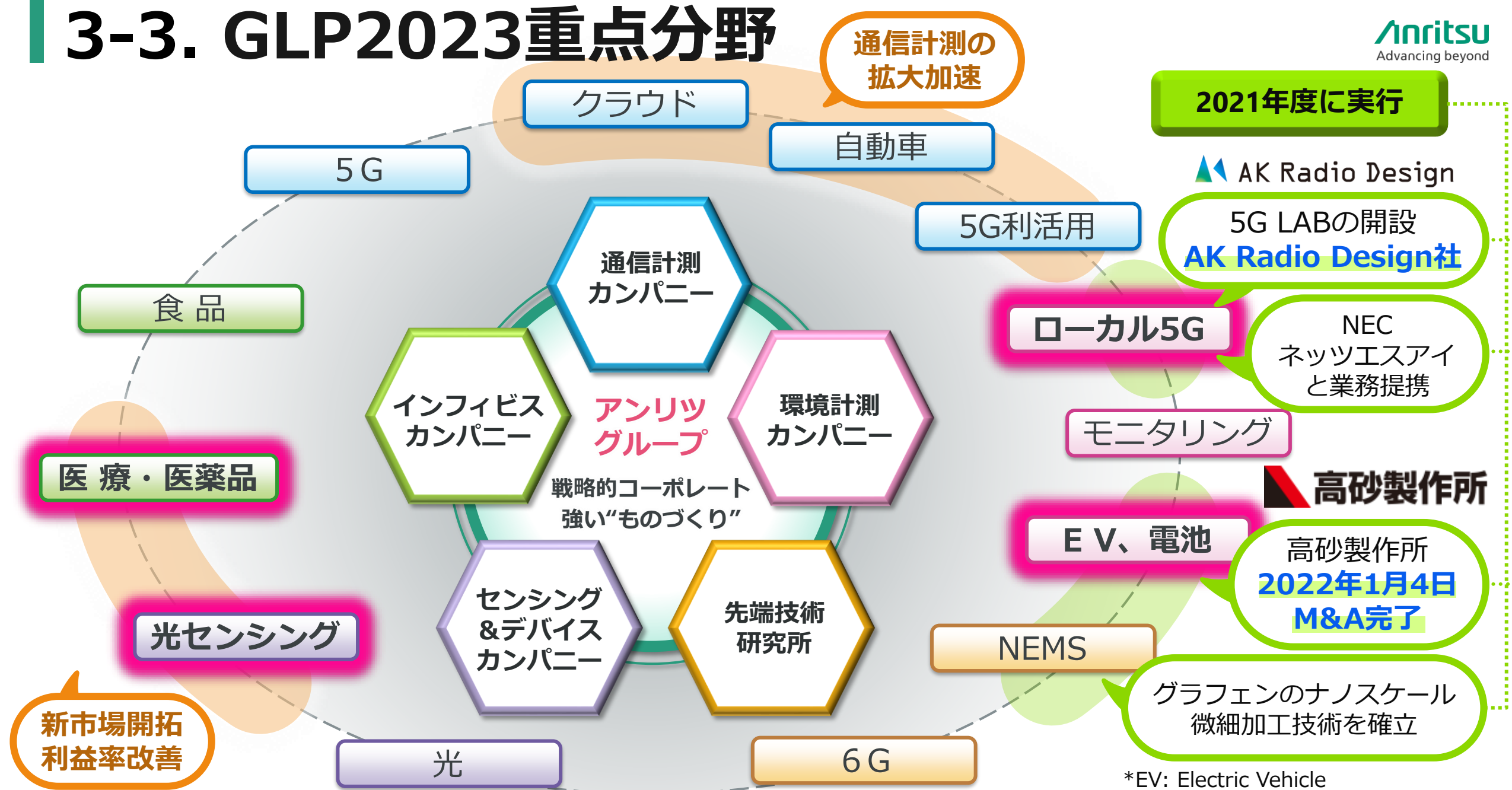
GLP2023

指標		FY2020実績	FY2021実績	FY2022実績	FY2023計画 *
売上高		1,059 億円	1,054 億円	1,109 億円	1,115 億円
営業利益		197 億円	165 億円	117 億円	109 億円
営業利益率		19 %	16 %	11%	10 %
当期利益		161 億円	128億円	93億円	85億円
ROE		16 %	11%	8%	7%
T&M 事業	売上高	748 億円	733 億円	728 億円	710 億円
	営業利益	177 億円	152 億円	109 億円	93 億円
	営業利益率	24 %	21 %	15 %	13 %
PQA 事業	売上高	214 億円	220 億円	248 億円	260 億円
	営業利益	13 億円	12億円	13 億円	16 億円
	営業利益率	6 %	5 %	5 %	6 %

* FY2023の計画は、2021年4月に策定した当初計画より変更しております。
また、2023年10月30日発表の数値に変更済みです。

- ※1 GLP2023想定時為替レート : 1米ドル=105円、1ユーロ=125円
- ※2 FY2022 実績為替レート : 1米ドル=135円、1ユーロ=141円
- ※3 FY2023 上期実績為替レート : 1米ドル=141円、1ユーロ=153円
- ※4 FY2023 下期想定為替レート : 1米ドル=140円、1ユーロ=150円

3-3. GLP2023重点分野



2021年度に実行

▲ AK Radio Design

5G LABの開設
AK Radio Design社

ローカル5G

NEC
ネットエスアイ
と業務提携

モニタリング

高砂製作所

EV、電池

高砂製作所
2022年1月4日
M&A完了

NEMS

グラフェンのナノスケール
微細加工技術を確立

*EV: Electric Vehicle

*NEMS: Nano Electro Mechanical Systems

*インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

4. 環境問題への取り組み

4-1. 気候変動への取り組み

2050年カーボンニュートラルに向かって、アンリツは2030年頃までに太陽光の自家発電比率を30%程度まで高めることに取り組んでいます。

2020年度：米国カリフォルニア州の工場に1,100 kWの太陽光発電設備を導入

2023年度：2022年度に導入した太陽光発電設備と蓄電設備を稼働（福島県郡山市）



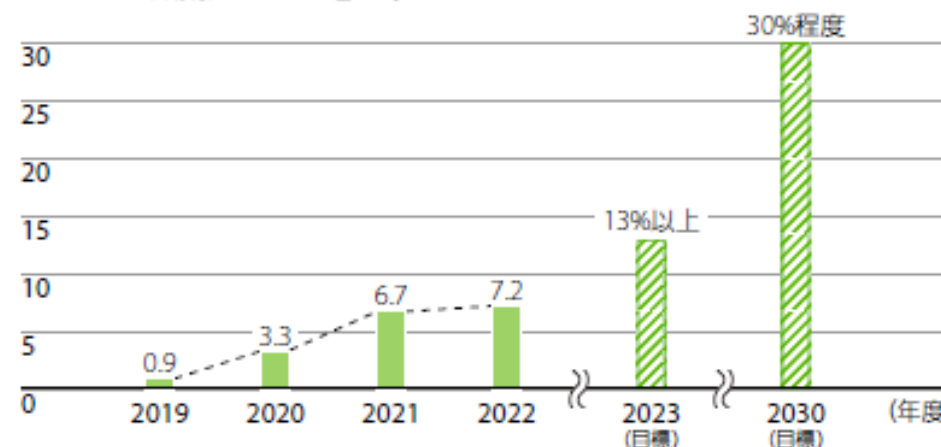
太陽光自家発電量と自家消費量

(単位：MWh)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
発電量	241	246	892	1,791	1,941
消費量	225	239	891	1,790	1,929

PGRE 30太陽光自家発電比率

(単位：%)



4-2. プラスチックごみゼロ企業への取り組み

アンリツは、2030年度までに「プラスチックごみをゼロ」にする取り組みを進めます。

プラスチック基本方針の対象

ペットボトル飲料



製品・調達部材の 梱包用プラスチック



事業所内で使用する 食品包装用プラスチック



2022年度の取り組み：福島県郡山市の工場にて自動販売機のペットボトル販売を廃止
厚木地区で使用済みペットボトルを新しいペットボトルに再利用

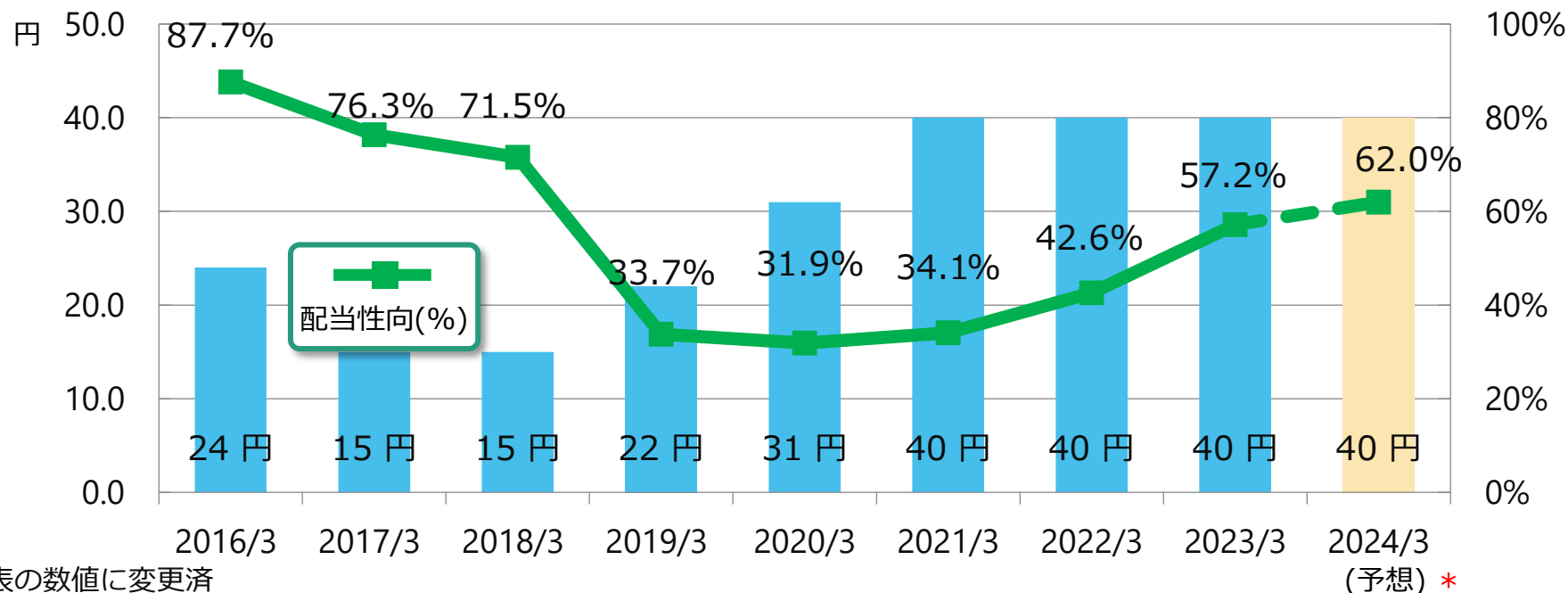
5. 株主様還元について

5-1. 配当について

- 2023年3月期 総還元性向：111%（配当53億円、自己株50億円）

	年間配当	当期利益	配当性向	ROE
2023年3月期	40円	93億円	57.2%	8.0%
2024年3月期(予想)*	40円	85億円	62.0%	7%

- 剰余金の配当等の決定に関する方針
目標とする連結配当性向を30%以上から50%以上へ変更



* 2023年10月30日発表の数値に変更済

(予想)*

アンリツウェブサイトのご案内

IR ウェブサイトのご紹介

アンリツ IR



で検索

IR 資料室



最新IR資料

最新の決算関連資料、IRミーティング資料、適時開示資料などを掲載しています。

[もっと見る >](#)



統合レポート

企業理念、トップメッセージ、企業価値創造、ビジネスレビュー、ESGなどをまとめ、毎年発行しています。

[もっと見る >](#)



決算関連資料

決算短信と決算説明会資料、説明会での質疑応答の概要を掲載しています。

[もっと見る >](#)



有価証券報告書/四半期報告書

事業年度における、四半期毎の実績および年間の実績を報告しています。

[もっと見る >](#)

